

令和5年度第1回 札幌市国民健康保険運営協議会の概要

1 日時

令和5年（2023年）7月5日（水曜日）午後2時～午後3時39分

2 場所

札幌市役所12階1号・2号会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 運営協議会委員（14名のうち出席者10名）

ア 被保険者代表

高橋 則克、細矢 信晴、皆川 智司、吉田 正幸

イ 保険医又は保険薬剤師代表

大森 幹朗、山野 勝美

ウ 公益代表

阪 正寛、田中 かおり

エ 被用者保険等保険者代表

中谷 慎也、小林 敬

(2) 役員

会長 阪 正寛

議事録署名委員 田中 かおり、大森 幹朗

※副会長 芝木 厚子（欠席）

(3) 事務局

保険医療部長、保険企画課長、保険事業担当課長、国保健康推進担当課長ほか

4 協議事項～次期保健事業プラン2024 骨子案及び原案について

(1) 事務局説明

- ・骨子案（第3稿）への事前のご意見に対する修正等を説明したうえで、委員に骨子案の確定の了承を得た（資料1）。
- ・保健事業プラン2024の原案の初稿について、各章ごとの構成を説明のうえ、プランの理解のために各章末尾にコラムを設けたこと、今後、巻末に「資料編」を設けることなどを説明した（資料2、3）。
- ・今後のスケジュールについて、次回の運営協議会后、ご意見を反映のうえ、議会説明を経てパブリックコメントを実施する予定であることを説明した。

(2) 主な質疑

Q 保健指導改善率の成果指標について、目標を「上昇させる」としているが、年1～2ポイントずつでもあげていき6年間ではこのレベルまでもっていこうという具体的な目標数値を設定した方が分かりやすいのではないか。

A 原案にも記載しているとおり、過度に成果（数字）を求めることの弊害も懸念されるため「上昇させる」としている。改善率上昇には取り組むが、どの程度上昇させるのが適切なのかは、取組を進める中で検討していかなければならないと考えている。

Q 札幌市の特定健診の自己負担は集団健診 600 円、個別健診 1,200 円と高いが、政令市では11都市で自己負担がない。受診率が伸びない、低いということについて、自己負担があるという目線で検討しているのか。

A 政令市の自己負担のある市とない市の受診率の平均を比較すると、ある市が30%、ない市が31%。また、札幌市の自己負担がある方の受診率は17%、ない方は16%（法定報告数値とは異なる）と差がない実態がある。また、受診者アンケートの「どのようなときに受診するか」という設問に対しては、自己負担額が無償であれば受診するという方より、健康状態に不安があるときに受診するという方のほうが多かった。以上から、現時点では自己負担の有無を見直す予定はない。

なお、無償にした場合の財源をどこに求めるかという問題もあり（保険料に求めている都市もある）ご理解をいただきたい。

Q 全般的に丁寧に分かりやすく書こうという意欲が見え、前向きに評価している。このプラン自体を市民や加入者に読んでもらい、健康管理に役立ててほしいとの記載もあるが、せっかくここまで丁寧に書き込んでいるのだから、さらに丁寧さに徹してほしい。

例えば、全国と比較するデータがないのに課題と設定した理由や、経年データで数値が不規則な動きをしているものについての背景などについても解説した方がいいのではないか。

A 承知した。

5 報告事項

(1) 報告第1号 令和5年度国民健康保険料

- ・令和5年度の保険料は、医療費の増加などの影響により上昇が見込まれたことから、本市の物価高騰対策として国民健康保険支払準備基金から10億円を活用し、保険料の上昇幅を抑制した。（給与収入400万円の2人世帯で約1万1千円の抑制効果あり）
- ・令和5年度の主な制度改正は、支援金分保険料の最高限度額の引き上げと、低所

得世帯に対する保険料軽減基準の拡大。

(2) 報告第2号 国保加入時のマイナンバーの誤登録

- 区において、国民健康保険加入手続の際に家族内でのマイナンバー誤登録の事案1件が判明した。
- 判明後直ちにデータ修正を行った。本事案では情報漏洩等は発生していない。
- 全区において同様事例の有無について全件調査を実施している。
- 本事案の発生は書類の確認不足によるものである。マイナンバーを手入力で登録する際は入力後の再チェックを徹底することにより、再発防止に努める。